

高校生、重機操縦を体験

由利本荘 地元団体が建設業PR



バックホーの操縦などを通じて
建設業への理解を深めた体験会

由利本荘、にかほ両市の建設業者でつくる由利建設業協会と県由利地域振興局は3日、由利本荘市二十六木の子吉川河川敷で高校生を対象とした建設現場体験会を開いた。由利工業高校建築科の2年生31人が重機の操縦などを通じて、建設業の仕事に理解

を深めた。

建設業界の担い手不足解消に向け、地元の高校生に建設業の魅力を伝えようと毎年開催している。

体験会が行われたのは洪水発生時の浸水被害軽減を目的とした河道掘削の工事現場。生徒は4班に分かれ、バック

ホーやドローンを操縦。工事を請け負う三浦組（由利本荘市西目町）の社員から情報通信技術（ICT）を活用し、

現場の車両走行や工事の進捗を効率的に管理していることについても説明を受けた。バックホーの操縦を体験した佐々木倫さん（16）は「操作が難しそうというイメージがあったが、やってみたら簡単だった。進路選択の参考にしたい」と話した。

由利建設業協会由利建友会

の森恵一会長（39）は「建設業は3K（きつい、汚い、危険）というイメージがまだ根強いかもしれないが、現在は最新機器を活用しながらより楽に、安全に仕事ができるようになっていて、これを感じてもらえたらうれしい」と話した。

（大谷好恵）